

繪書之、近代如折櫃色々染散薄、可依時儀事也、折敷之色ニ違テ可居也、

朝覲行幸已下有限晴時必居筥、爲法式之時尤可然歟、

〔厨事類記〕殿上境飯略○中

筥口徑五分、高三寸押色々薄様、金銀布持、

〔日本書紀十六〕十一年○仁賢、太子、武甫知鮪曾得影媛、悉覺父子無敬之狀、赫然大怒、此夜速向大

伴金村連宅會、兵計策略○中是時影媛逐行戮處、見是戮已、驚惶失所、悲淚盈目、遂作歌曰○中拖摩該

爾播伊比佐倍母理、拖摩暮比爾、瀾逗佐倍母理、爾岐會哀遲、喻俱謀、柯礙比謎阿婆例、

〔萬葉集二〕有間皇子自傷結松枝歌二首

家有者、筥盛飯乎、草枕旅爾之有者、椎之葉爾盛、

〔續修東大寺正倉院文書四十三〕宮陶司石山寺充雜器事

筥參拾口略○中

天平寶字六年二月九日

正六位上行正林連黑人

〔續修東大寺正倉院文書後集四十三〕山作所作物雜工散役帳

橫工十六人略○中 四人作大筥廿合略○中

天平寶字六年三月卅日

〔伊勢物語上〕今はうちとけて、髪をかしらにまきあげて、おもながやかなる女の、手づからいひか

ひをとりにて、けこのうつはものにもりけるを見て、心うがりていかずなりにけり、

〔倭名類聚抄十六〕擧 唐韻云、擧音豫、今案俗所昇、食器也、

〔箋注倭名類聚抄四〕按說文無擧字、疑俗昇字、又說文有暴字、云擧食者、徐鍇曰、如食牀兩頭有柄、

中取